

視聴覚教育

NO.306

発行日

16.10.8

発行

岡崎市AVL

編集

現職教育委員会

学習情報部

視聴覚用語 QRコード

最近、雑誌や携帯電話
関連の商品などで、よく
見かけるようになった
「白黒の模様」。QRコ
ードは、縦、横、二方向に情
報を持つことで、バーコ
ードよりも記録できる情
報量を飛躍的に増加させ
たコードです。

デジタルビデオライブラリー システムの更新

視聴覚ライブラリー副所長 深谷悦子

視聴覚ライブラリーでは、デジタルビデオライブラリーシステムにより、平成10年6月1日からCATVミクス23チャンネルで放送を開始し、平成11年6月1日からは現行12チャンネルの「チャンネルおかざき」を經由して、教育教材用に多くの資料映像や自作ビデオ作品を配信し続けています。しかし、機器の老朽化に伴う種々の不具合が発生し、その解消を目的にこの度最新のシステムに更新しました。

平成8年度に導入したシステムは、時代の先端を行く画期的なものでしたが、ここ数年の技術の飛躍的な進歩により更に進化し、従来のDVDによる運用から、ハードディスクにより映像をそのまま配信、運用することが可能になりました。これにより、検索時間の短縮はもとより、非常に安定した映像配信が可能となり、将来は、ネットワークを經由してさらに広く情報を発信していく可能性を秘めています。

10月から、新システムによる配信番組をご覧いただけます。もうすでに変化にお気付きかと思いますが、次の三点が大きく変わりました。

一点目は、番組と番組の間の待ち受け時間が、短くなりました。従来のシステムでは機能上の制約から10分を超え、また待ち受けなしの連続放送も試みています。従って1回(2時間)に放送する番組数が1.2本増えています。

二点目は、待ち受け画面のデザイン及び提供内容の一新です。スケジュールが分単位で設定可能となったため、待ち受け画面をきめ細かく管理できるようになり、次の番組開始までの待ち時間案内と共に、視聴覚ライブラリー及び生涯学習課に関するお知らせ情報を、BGMにのせて提供しています。常に最新の内容に更新して、ホットな情報をお届けします。



三点目は、ライブラリーの受付カウンターに新たに設置した端末により、本システムで保存するビデオ教材約1,400本を、全て動画でご覧頂くことが可能になりました。是非ご利用ください。また、技術の進歩により機器が非常にコンパクトになり、従来の10分の1程度に収まったため、室内の編集スペースがとて広くなりました。自作教材の編集などご迷惑をお掛けすることが多々ありましたが、今後はもう少し自由にご利用いただけると思います。

「視聴覚教育あれこれ」

平成十六年度岡崎市教育研究大会

去る9月13日(月)、葵中学校で岡崎市教育研究大会の学習情報分科会が開催された。助言者には名古屋大学の大谷尚教授をお迎えした。「高度情報通信社会に対応する学校での新しい視聴覚・情報教育のあり方を追究しよう」をテーマに、熱心な報告や討議が行われた。発表された13点のリポートの内容を分類すると次のようになる。

- 岡崎ネットワークをはじめとするネットワーク活用の研究 (3)
- 校内ネットワーク・グループウェア活用の研究 (2)
- 情報を発信して、表現力を高めるためのコンピュータ活用の研究 (2)
- 学習メディアとしてのコンピュータの効果的な活用法の研究 (5)
- 学校放送やインターネットなどの情報を利用した研究 (1)
- 助言者の大谷先生には、一人一人に丁寧なご指導・ご助言をいただき、次のような言葉でまとめられた。
 - 情報の力というものは、周辺の能力である。岡崎市の先生方には、これからもこの力を使って、ぜひ子どもたちの中核的な能力を育てる取り組みを進めてもらいたい。
 - なお、「父母と教師の教育を語る会(県教研)」には、小豆坂小学校の川本祐二先生と連尺小学校の杉山康子先生が選ばれた。

「部会調査報告」

視聴覚機器保有調査の報告

学習情報部研修部会では、平成16年7月に市内各小中学校の視聴覚機器の保有状況の調査を行った。調査の内容は「機器の保有状況」「使用頻度の高い機器」「今後充実を希望する機器」の三項目である。詳細は年度末に刊行される『岡崎の視聴覚教育（第36号）』に掲載されるが、ここではその調査結果の概要について報告する。利便性や汎用性の面から、ここ数年でデジタル化が急速に進展したことにより、充実したい機器の上位は、ほとんどデジタル機器が占める

主なデジタル機器の平均保有数【表1】

機器名	小学校	中学校	総合
DVD プレーヤー	0.2	1.7	0.6
DVD レコーダー	0.1	0.4	0.2
デジタルビデオカメラ	1.8	3.0	2.1
デジタルスチルカメラ	20.1	24.9	21.4
MD 付ラジカセ・コンボ	2.5	3.7	2.8
ビデオプロジェクター	1.8	1.4	1.7

パソコン対応のもの

平成13年度との比較（市内合計数）【表2】

機器名	H13	H16	伸び
DVDプレーヤー	8	35	4.4倍
デジタルビデオカメラ	36	117	3.3倍
デジタルスチルカメラ	199	1,178	5.9倍
MD付ラジカセ・デッキ	52	207	4.0倍
ビデオプロジェクター	15	91	6.1倍

パソコン対応のもの

結果となった。そのため、実際の保有状況を把握することが有意と考えて、調査から主なデジタル機器の平均保有数を出してみた。【表1】さらに、下段【表2】のように、平成13年度と現在を比較するとデジタル機器の増加の様子が分かる。パソコン教室における一人一台環境の整備や学校インターネット事業などの実施によって、デジタル機器について充実にしてきた様子が伺われる。どの機器もそれぞれおよそ三〜六倍に増えている。

次に学校が要望する「充実したい機器」では、DVDプレーヤーが小学校、中学校ともに一番多かった。特に、録音用のデッキよりも、教室などで使い勝手のよいポータブルタイプの要望が多いことが特徴である。DVDソフトの普及やパソコンとの連携により、今後VHSテープに替わるメディアとして、定着しはじめたからであると思われる。

他に、パソコン関連機器では、大型カラープリンタや外付けHDDといった要望が増えてきている。また、パソコン教室更新時に大量に導入されたデジタルスチルカメラについては、記録用に高画質なものが求められている。コンピュータ用ソフトの要望については、動画編集ソフトが最も多く、ノンリニア編集が学校現場でも広がりつつあることがわかった。学習や行事の記録を編集したり、自作教材を作ったりといった用途が着実に増えているようだ。

ライブブリーだより

全国自作視聴覚教材コンクールの結果

平成16年度の全国自作視聴覚教材コンクールが、応募総数一作品を対象に行われました。審査の結果、最優秀の文部科学大臣賞をはじめ、岡崎市の作品が4作品も受賞しました。なお表彰式は、11月29日（月）の視聴覚教育総合全国大会東京大会で行われる。

【文部科学大臣賞】「小学校部門」

- ・岡崎市自作視聴覚教材制作委員会C班
「日本の灯りを守る 和ろうそく作り」

【優秀賞】「小学校部門」

- ・岡崎市自作視聴覚教材制作委員会G班
「ごみごみ探検隊」

【優秀賞】「中学校部門」

- ・岡崎市自作視聴覚教材制作委員会A班
「農業の企業化 小久井農場の挑戦」

【優秀賞】「社会教育部門」

- ・岡崎市自作視聴覚教材制作委員会B班
「ふるさとを醸す酒造り」

新規購入機材の紹介

ノンリニア編集用に、ノートパソコン（NEC）を3台購入しました。

これでは現在ライブブリーには、6台のノンリニア編集環境ができました。それぞれ特徴があります。教材作成など、ぜひ職員にご相談ください。

